

第3回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会について（報告）

1 日 時 令和2年7月31日（金） 午前10時から正午まで

2 場 所 日立市消防本部 3階講堂

3 出席者

(1) 委員 19名（欠席：古井委員、富田委員）

(2) 傍聴者 2名

4 内容

冒頭に事務局から新任の委員の紹介及び1名の委員の欠員により、委員総数21名で再開することが説明された。また、4月の人事異動による事務局の体制の変更が紹介された。

(1) 委員長挨拶

（砂金委員長）

- ・本日が3回目の委員会であるが、前回は2月の下旬、今日が7月の下旬ということで5か月ぶりの再会ということになった。皆さんにこうしてまたお会いできたのを大変嬉しく思う。この5か月間で、人と人の関係など、行動が大きく変わっていて、まさにこの会場のレイアウトもそれを表しているが、恐らくこの中のいくつかは、今後収束することによって元に戻るかと思うが、今回のこの変更のいくつかは、今後の社会そのものの在り方を変える部分もあるのかなと感じている。そのため、この委員会はコミュニティの新しい在り方を検討する委員会であるが、ますますこの委員会の役割が大きくなっているように感じている。
- ・この委員会は5か月ぶりであるが、1回目と2回目で情報共有をさせていただき、いよいよ皆さんに議論いただくという、まさにその段階で5か月間空いてしまったので、ちょっと間が空きすぎてしまった。この委員会で実のある内容のある議論を進めていきたいと思っていたので、大変僥越ではあるが、7月15日に、石川副委員長を始め6人の委員にお集まりいただき、この委員会をどうすれば実のある形で議論が進められるかということについて、意見を伺った。本来であれば全ての委員に、意見を伺うべきだったが、平日ということもあり、6人の委員だけに意見を伺った。これは私の独断であり、申し訳なく思っている。
- ・そのことは後程また、議題の中でもお話ししようと思っているが、今

日から是非、具体的な議論に入りたいと思っている。本日はこの新しいコミュニティ活動の在り方について議論をするうえで、議論すべき論点をまず整理したい。さらには、論点がいくつか出てくると思うが、これについて絞り込みを行いたい。そして、絞り込んだ論点の優先順位をつけたい。今日はここまで行って、次回以降の委員会につなげていきたいと思っている。事務局から、事前に資料を送ってもらい、かつ、それぞれ今お話した論点についての意見を、出来ればまとめてきてくださいとお願いがあったと思うが、是非今日は、本当に委員の皆さん一人一人に忌憚のない意見を伺いたいと思っているので、よろしく願いたい。

(2) 今後のスケジュール案について

○委員長

- ・次第ではまず「3 今後のスケジュール案について」と書いてあるが、スケジュールの進め方については、論点整理をしたうえで議論をしたいと思うので後に回させてもらい、先に論点整理の議論をしたうえで事務局から説明してもらうこととしたい。

(3) 検討の視点について

(4) 市民からの意見募集結果について

(5) 若い世代からの地域活動に関する意見について

上記(3)、(4)、(5)について事務局から一括して説明を行い、説明した事項についての質問を受けた。

○委員

- ・資料4の常磐大学学生のグループ討議の結果と、若手職員のワーキングチームによる検討会について、常磐大学学生によるグループ討議は自治会・町内会に加入するメリット・デメリットについてというテーマだが、この参加した学生は、自治会・町内会に関わりのある人なのか、それがどのくらいメンバーにいるのか、それから、2の若手職員のワーキングチームによる検討会(第1回)について、これが第1回なので第2回もやると思うが、若手職員だけではなく、中間職員の意見も聞く考えがあるかどうか確認したい。

○委員長

- ・常磐大学の学生たちについて、彼らのうち、一人暮らしの学生が3名おり、一人暮らしの学生たちは、今現在は加入していない。ただし、10名のうちの8名のご家庭は町内会に加入している。彼ら自身も大学に入った後は、残念ながら町内会活動に関わっていないけれども、例えば、小学校・中学校の頃は、自分の家が自治会・町内会に入ってい

たので、町内会活動には関わっていたという学生たちである。

○事務局

- ・市の若手職員のワーキングについて、後程説明するが、今後の予定として、今年度あと2回開催を予定していて、平均年齢としては31歳である。
- ・中堅層の職員から意見を吸い上げないのかということについては、こちらも後程説明するが、庁内の関係課所長会議を予定していて、そのメンバーとして、40代・50代の課長から意見をいただいているところである。

○委員

- ・資料4の1の常磐大学学生によるグループ討議結果についてだが、テーマが自治会・町内会ということで、コミュニティに関する意見に関して、自治会・町内会と限定した理由を教えてください。

○委員長

- ・こちらは私のゼミナールで実施したものであるが、いわゆる日立市のコミュニティ単会に相当するものが、必ずしも今彼らが住んでいる市町村にあるわけではなく、自治会・町内会はほぼ全ての市町村にあるので、彼らが自分たちの目線で議論をするために、コミュニティではなく、自治会・町内会に限らせていただいたという経緯がある。
- ・もうひとつ付け加えると、彼らは地域活動をやりたくて大学に入ってきたという結構レアな学生たちではあるので、いわゆる若者代表と考えていいかということには若干疑問があるが、相当地域に関わりたいたいという子たちの意見である。

(6) 意見交換

○委員長

- ・事前に資料を送付したが、検討の視点のうち各委員が考える議論すべき項目の優先順位を検討してくださいとお願いしているので、もちろん資料にある論点以外でも構わないが、どんな論点を優先的にこの検討委員会で議論すべきかについて、意見を伺いたい。

○委員

- ・この検討の視点は7項目ある。それから、市民からの意見募集結果について資料3がある。それと、前に1回2回で出たいろいろな今までのコミュニティの課題等を考えて、先程委員長から話のあった、論点を絞るということだが、この検討の視点ということからいうと、論点を絞るというのは非常に難しいなというふうに思っている。
- ・この中で、私が個人的に考えているのは、3点くらいに絞って、この

一つ一つについて重点的に議論を進めてはどうかと思うが、この3点に絞るという意味では、具体的にどういうふうに絞ったらよいか頭の中でまとまっていない。

- ・今までの1回2回の話の中で見ると、自治会・町内会とコミュニティの関わりが、今本当にこれでいいのかという議論、それから、もう一つは住民意識と若者参画というものの論点をどのように持っていくかということと、私が今、非常に問題視しているのは、行政とコミュニティが関わった地域福祉の問題を、真剣に考えていかなければいけないのではないかなという感じがする。
- ・先生が論点を絞るということは、このスケジュールを見ても、あんまり論点を多く持っていくとまとまりがつかないということだと思う。1つの論点に議論を集中して、それを何回かに分けてやればいいのかというふうに思うが、この資料からすると、そういう感じかなというところである。

○委員長

- ・論点を3つくらいに絞ってはどうかという意見であって、例えば、論点の絞り方としては、コミュニティと自治会・町内会との関係の話と、住民意識や若者の話と、あと地域福祉ということだったが、行政とコミュニティの関わりの話という、この3つという提案だった。今のような形で、是非皆さんにも意見をいただきたい。

○委員

- ・皆さんの意見を見ていると、結局若者の求める地域活動と、現在のコミュニティ活動の2つ、検討の視点について資料2の7番の(2)、それから、市民からの意見の6番の(1)のカ、地域住民とコミュニティとの意識の乖離となっている。
- ・コミュニティの捉え方というのが、若者と、それからその自治会・町内会をコミュニティというふうに捉える考え方と、意識の乖離というのが大きいということなので、先程の委員の提案と同じだが、1つのグループは、地域住民の考えるようなコミュニティ活動、もう1つは自治会・町内会を意識したコミュニティ活動、それと行政との関わりというような形がいいかなというふうに思う。

○委員長

- ・3点で、1つは地域住民とか若者を意識するコミュニティの在り方みたいなもので、もう1つが自治会・町内会とコミュニティの関係性とか在り方で、もうひとつが行政とのコミュニティの在り方、この3点ということであった。

○委員

- ・私たち市民全体で、住みよいまちってどんなまちなんだろうと言った時に、ジャンルの的に言うと、安全で安心して住めるとか、あるいは健康面でしっかりサポートされるまちだったとか、あるいは防災面でしっかり体制が整っているとか、あるいは教育面で小さいころからの人材育成とか、あるいは生涯学習の視点とか、そういう私たちがどんなイメージで住みやすいまちなのかという、その部分でコミュニティとか自治会がどういう役割を果たしていくかという、そういう所は不変だと思う。
- ・しっかりそこは、恩恵を受けるだけじゃなくて、受ける側も地域に何かしら貢献するという、ウィンウィンの関係というのがあるって、私たちの幸せな暮らしが成り立つというイメージがあると思う。
- ・ここでの議論では、最終的にどんなまちを作っていくために、自治会やコミュニティがどんな役割をしていくのかというところに行きつくような、切り口というのがしっかりされていればいい。あまり間口を拡げてしまうのも難しいが、単純に日々、それぞれが仕事を抱えながら、子育てしながら生活していく、その生活というものが充実して、落ち着いて、日々安心した快適な生活が出来るということが、私たちの目指す生活だと思う。それに対して、どう役割を果たせるのか、果たしてもらいたいのかというところが議論の中に入っていけば、明確に方向付けが出来ると思う。

○委員長

- ・まず、そもそもの目標として、幸せな住みよいまちというものがあって、そういう目標に達するために、コミュニティがどういう役割を果たせるのかということに議論を進めたいということであった。

○委員

- ・今の委員が話していたように、何のために、どんなまちを目指して、行政とコミュニティの人が、どういうまちにしようかということが、今はただやっているような状態になってきているかなというふうに思うので、私ははじめに、これからどんな時代がきて、そこに、どういう日立を目指そうとしているのかというのは、行政も当然だが、住民としても、どんなまちでありたいということがしっかり言える必要があると思う。
- ・それと同時に、地域力を上げていくためには人材が必要だが、今までのコミュニティの延長ではなく、新しい、まさに今コロナの関係で動きが取れなくなっているような状態の中で、チャンスではあるかなと思っ

ているので、新しい動き、新しいコミュニティの在り方を考えたいなど思う。しかし正直に言って、今住民の方から行政の下請けだとか、やらされ感が強いとかとなっているところに少し疑問があって、行政とコミュニティの協働の体制が、上手く仕組みとして出来ていないような気がするので、やらされてるというよりは、コミュニティと一緒にやる時に、どういう仕組みなり、どういうものを持っていけば、住民にも上手く伝えられるのかというようなことも、少し工夫しなければいけないと思っている。

- ・大変重要なことであり、コミュニティだけではできないので、行政とコミュニティの中に協働の在り方をこれからどうしていくというようなことについて、新しい仕組みを作っていく必要があるかなと思っているので、そういったことを議論したい。

○委員長

- ・やはり、どういう日立を目指すのかということが大前提なわけだが、そのために、必ずしも今までの延長に限らず、新しいコミュニティの在り方がまず示されなければならない。そして、行政とコミュニティの協働の体制であったり仕組みであったり、在り方みたいなものが、提示できればというようなところである。結構共通している部分が出てきている。

○委員

- ・私は、論点を絞っていくと考えた時に、住民意識的なものに、コミュニティ活動をする側と、参加する側の意見が出てきたなどと思う。その中で絞っていったときに、行政とコミュニティ、自治会ということもあると思うが、住民意識の中に、その地域の中にある各種団体との連携などということをしていく必要があるのかなと思う。大きな括りの中に、住民意識はコミュニティ活動をする側、している人たちと参加する人たちのところの、市民意見の中でも今後の対応策ということでテーマを出していただいているので、その辺を踏まえながら、本当に新しいコミュニティづくりということが必要になってくるのかなと思う。組織の中に、各種団体とかを入れながら進めていくということが、ある意味全てのまちづくりの生涯学習を担うというようなことも出てくるので、安心・安全を含めて、一緒にやっていく、組織をきちんとしながら、新しいコミュニティをやっていくのがいいのかなというふうに感じた。

○委員長

- ・行政とコミュニティの関係と、今強調されていたのが各種団体、行政以外の様々な団体が当然日立市にはあるわけで、そういう様々な諸団

体とコミュニティの関係性を考え直して、新しい在り方を検討するということであった。

○委員

- ・今は、この社会情勢から言って、大変不安な生活を送っている。これは私だけに限らず、皆さんが同じ考えだと思うが、コミュニティについても、不安と安心というのは表裏、表と裏と両方あると思う。安心を求める時に、私が常々感じるのは、地域の情報とか、近隣の方々とも世代を超えて顔が分からないかなというのが、今一番不安なところである。皆さんの近隣の方でも、顔が分からない。本当に近所は分かるが、よく分からない。顔が見えない、こういった世代を超えたコミュニティの在り方、こういったものを考えることが出来ないかなと考えている。

○委員長

- ・顔が見えなくなりつつある社会なわけだが、ここ数十年間どんどん、人同士の絆、地域の絆が薄れていると言われている。さらにコロナで、それが加速しかねない状況にある中で、いかにして顔の見える、そういう関係性のあるコミュニティを作っていくかということが重要である、論点になるということである。

○委員

- ・最初の時に出たと思うが、コミュニティの基礎会員というか、全住民を対象にして、コミュニティは活動しているという建前になっている。今どうしているかということ、かなりの人が自治会・町内会を辞めている。コミュニティは、自治会・町内会を通して、いろいろな情報を流したり、つながりを持ったりしているが、その基本のところ、どんどん辞めていっている。メリットがないとか不便がないとかいうところを、最初に考えていくべきではないかなと思う。
- ・このままだと、コミュニティの組織が直接、住民と繋がる形を取っていくのか、どうなのかなというのはあるが、このままだとそういうふうになっていってしまうのではないかなと思う。その全住民を、コミュニティは会員としているという組織を見直す、考え直すということかもしれない。寄付金をいつも同じ人からもらっているというようなことも含めて、根本のところを最初に見直すべきじゃないかなと思う。

○委員長

- ・当然、全住民を対象という前提で、今の組織はあるわけだが、残念ながら、実態としてそうではなくなりつつあるという現実を踏まえたうえで、現実に向き合いつつどういう組織にしていくべきかということ

を議論すべきだということだと思う。

○委員

- ・少し違う観点から。今現在、私は、コミュニティ推進会の会長をやっているわけだが、その中で拠点は交流センターである。先程から、若い人とか町内会に入っていない人についての話題が出ているが、そういう人は交流センターにはほとんど来ていない。そこが1つの問題だと思う。前にも、せっかく日立には、コミュニティ推進会という立派な組織があり、その拠点として、交流センターがあり、交流センターとコミュニティ推進会は一体で、地域のいろいろな事に対して、役に立っているというところをお話した。全国で見ても日立市のようにコミュニティ推進会が全学区にあって、交流センターが全部のところにあるというところは少ないと思う。それぞれのところにコミュニティ推進会、交流センターが全学区のところに無かったときには、公民館制度になって、3つ4つの学区が共同で使っているという時代もあった。今は、拠点としての交流センターがある。そのところに、もう少し市民が集まれるような、そこに行かなければならないという組織、または、そういう力があってもいいのかなと思う。そうしないと、もちろん自由意志だが、ばらばらになってしまっている。我々も社会的動物だが、例えばサル山なんかで見ても、暖かいときにはいろいろ飛び回っているが、本当に寒くなると、一塊になってきちんと暖を取っている。それがまとまりであり、自分たちが困ると、自分のぬくもりだけでは寒さはしのげないので、隣人のぬくもりを借りて、寒さをしのぐ。今は逆に言うと、ある程度凄く自由なところなので、一人が勝手に動いても暖は取れる、寒くない。若い人の意見が自由で関心がないとかではなくて、関心がないと逆にその人が困るよというところまで、いろいろな事に対してコミュニティ推進会が、逆に出ていってもいいと思う。来るのではなく、出ていく。そうしないと、バラバラになっていく感じがする。
- ・全国的に、昔から子ども会があったが、今かなりのところで崩壊している。親たちが忙しいとか、役員をやる気がないとか言って、結局崩壊していく。今ここで議論しているコミュニティ推進会の在り方は、そういう人たちに、ゲームをして面白いことをやるとか、楽しいことをやろうというようにも書いてあるが、そういうのではなくて、もうちょっと生活にきちんと根差して、コミュニティ推進会に入っていないと損であり、生活しづらいというようになっていってもいいのかなと感じている。

○委員長

- ・大事な部分だと思う。コミュニティがないと困る、コミュニティに入っていないと生活しづらいという意識を持つか持たないかは、大事だと思う。よく政策などでは、プラスの誘因、マイナスの誘因という言い方をするが、要するに飴と鞭である。つまり、入っているとすごくプラスになるという話と、もう1つは入っていないとマイナスだという話の2つが必要で、そのために、そういうふうに市民に思っていたできるように、どういうふうにコミュニティをそういう組織にしてい、そういう活動にしてい、という考え方はとても大事である。

○委員

- ・質問であるが、資料4の2の(4)の力、家族が暮らしやすくするために加入したという一文があるが、家族が暮らしやすくするためということで、何か意見は言っていなかったか。その理由として、どういうことがあげられるのか。みんな否定的な意見が多い中で、入った理由に家族が暮らしやすくするためにというのがあったので、なるほどと思ったが、さらに言うと、顔が見えるコミュニティという話もあったが、コミュニティのいろいろなものを削ってスリムにしていって、コロナの時代で、どうしても必要な最低限のものというのはこれに行きつくのかなと思った。やはり顔が見えるコミュニティというのが、非常に今後重要になってくるのかなと思うので、こういうテーマを1つにするにはどうしたらいいというような形で、それぞれのコミュニティの考え方で分けたら、話しやすくなると思う。

○事務局

- ・ワーキングチームによる検討会の中で、家族が暮らしやすくするためにという話があったのは、引っ越した時に誘われたので、断りづらいというか、入った方がいいんだろうなというような意見だったので、具体的に細かい何かがあったわけではなかった。

○副委員長

- ・要点を絞るという意味では、この在り方検討委員会では、全住民を対象にするとか、加入率が低いとか、担い手がいないということが、大きな意味を持っているので、加入率というか、全住民対象で入れるような活動をするコミュニティか、あるいは、資料にもある若い世代の人たちや関心の低い人たちのような、必要性を感じていないというような人を容認したコミュニティ活動にするかによって、その内容というのは違ってくると思う。1つの具体的に絞る論点としては、その辺を基準にしたらどうかと思う。

○委員長

- ・担い手不足や加入率が下がってきているという話の中で、加入しない方々とコミュニティがどう向き合うべきか、それをしょうがないと諦めてしまうのか、それとも、そういった方々に何らかの形でアプローチをするのかという、コミュニティの在り方なり、活動の在り方について、検討すべきという意見であった。

○委員

- ・今までいろいろな意見が出ていて、極論かもしれないが、町内会がかなり無くなっている中で、その地元で一番困るのが、外灯というのが町内会をつけているものなので、町内会がなくなると、誰がお金を払うのか、外灯を外せとなってしまうことである。街中はいいが、ちょっと離れたところだと、小さい子ども、小学生が帰るころに冬はもう真っ暗になってしまう。若い親なんかは、外灯がなくなったら困る、でも町内会には入りたくないという意見がある。今までは、年配の方がお金を出しながら、外灯をやりくりしていたが、私たちは夜もう動かないから外灯なんかいらなくなってきた。お互いのすり合わせが出来ないというのは、ものすごく見て感じる部分である。特に、言い方は悪いが、今の若い方というか、学校の役員でもそうだが、好きなやつがやればいいとなってしまう。私たちの考えでは、学校にお世話になっているので、どうしても子どものため、学校に協力が出来ればということで、いろいろなことをやるが、そんなものはやってられない、好きなやつがやればいいとなってしまう。子ども会も同じである。結局、少年団があるから子ども会なんかとなってきた、特に5年生6年生になってくると、会長をやらされるから辞める。町内会も会長はめんどくさいから、町内会を抜ける。極論から言うと、出来れば全員、自主性で参加をしていただきたいが、小・中学校の奉仕作業などでも、参加できない方にはペナルティをつける、町内会でも、市の奉仕作業に出なければ1回500円会費として徴収するというような、あるいは市の方でも、全員参加みたいに、そこに属さない方には何かあるとか、属した方にはこういう特典があるというものを、市の方の大きな組織から何か投げかけが出来れば、少しは変わってくるのかなと思う。

○委員長

- ・今、外灯の話が出たが、これは行政学で非常に根本的な問題として、フリーライダー問題というものがある。みんなで負担をしないと外灯が点かないけれども、負担しなくてもただ乗りできてしまう。そうす

ると人は、どうしてもただ乗りしたくなってしまって、なかなか外灯が設置出来なくなる。こういう問題がいろいろな部分にあるはずで、例えば、道路とかもそうであり、よく言われるのは灯台である。灯台は、みんなで出し合って作れば、船が安全に航行出来るけれども、お金を出さなかった人も、安全に航行出来てしまうので、誰も払いたがらず、灯台が出来ないという問題で、これがフリーライダー問題という行政学の根本問題である。

- ・一つの解決策として人類は国家を作ったと言われていて、行政が強制的に税金を徴収して、外灯を作るという手段があるという行政学の原論の話をよくするが、それに近いことが今コミュニティで起きているということである。他の委員の話していたことと結構近い部分であり、参加しない人にペナルティを課すことは難しいとしても、参加しないと損だというようなマイナスの誘因や、参加するとこんないいことがあるぞというようなことをある程度、住民の方に知っていただくような仕組みづくりが必要で、それはコミュニティだけでは難しいので、行政が何らかの形でサポートするというのは必要だと思う。

○委員

- ・先程の話と関連しているが、外灯については話のあったとおりであり、PTAと学子連について話をしたい。PTAについては必ず存続しているが、学子連はどんどん衰退している。PTAは、子どもが学校にいる間は、絶対に役員がいやでもなんでもやっている。子ども会は地域の団体なので、いやだったら役員を辞めるし、役員がいなければ解散するということになる。
- ・委員長が話したように、プラスかマイナスか、またはこういうことをコミュニティに頼まなければならない、頼まなければ損だ、生活できないというように、行政ではないがそういうところまできちんといくとたぶん加入率などが上がると思う。そのためにはいろいろと行事をやりましょうというようなものをしっかりと考えて、スリムな最小限こういうことをやりましょうという、例えば先程の外灯の問題などでは、外灯費の徴収だけはやる、そういう自治会であれば、外灯だけはしょうがない、外灯が無ければみんな真っ暗になってしまうから、そこだけやりましょうということにする。あとはもうちょっとプラスしたもので自治会はやりましょうと考え、コミュニティの問題になるが、こういうものとこういうものは必ずみなさん必要だからやりましょうということをもう一回考えて、最小限こういうことでやるのでぜひ参加してくださいというかたちが今後少しずつ出来ていくのかな

と思う。

○委員長

- ・活動の話である。今、最小限という話だったが、どんな活動に絞っていくかだったり、どういう活動を選択していくかだったり、その中でその活動が無ければ困るということを、住民に対してしていくことが出来れば加入率などにつながってくるかもしれない。

○委員

- ・こういう話をしていると、また元に戻ってしまう。今の委員のような話も、それぞれがコミュニティに関わっている大きな問題であるし、だからコミュニティの在り方をどうするかというかたちで今検討委員会になっているが、まず個々の話については、論点を絞って、そのうえで話をして、組織の検討の中で話すのか、それとも行政との関わりを考える中で今の委員が話したような内容を話すのか、その辺も委員長の最初に言っていた論点を絞ったうえで、次の段階としてそういう問題を話し合うべきではないかと思うのだが、どうなのか。

○委員長

- ・本来、私が進行すべきところをまとめていただいた。そのとおりであり、今ここで具体的な話まではしなくていい。こういうところを話そうというところまで整理できればいいと思っている。

○委員

- ・大変申し訳ないが、私としては自治会や町内会はコミュニティの一部であって、私の考え方・捉え方としてはコミュニティというものに自治会・町内会というのとは頭がない。そういうコミュニティの考え方もあるというところで認めていただき、若者の求める地域活動というところで言えば、若い人たちからすると自治会・町内会というのとはコミュニティという部分に入っていないと思う。コミュニティ活動と言ったときに、違う考え方をしている人はたくさんいると思う。そこら辺を無視して、自治会・町内会の話だけで進めていくと、進歩がないと思う。

○委員長

- ・非常に難しいところであり、コミュニティというのは多義的な概念で、日立市においては各コミュニティ単会を意味するということがあれば、もっと広く地域全体やその活動のことをコミュニティという場合がある。広い意味では自治会・町内会もその中に含まれてくるが、そのあたりをこの委員会の中では「コミュニティ」という言葉をどういう文脈で使っているのかというのを共通認識したうえでの議論をし

ないと、不毛な議論になりかねない。コミュニティの組織を考えるうえで、自治会・町内会との関係みたいなものははっきりさせておく必要はあるのかなと思っている。

○委員

- ・もう既に1回目と2回目でいろいろ皆さんの意見が出たと思う。出た結果に、さらに各委員や市民に対してアンケート等を取り、その結果を事務局の方でいろいろ考えて、資料2や3のような形にまとめたのだいたいののではないかと理解している。特に資料2については、かなりの情報があったものを、よくこれだけの7項目に収めたと感心している。資料3に関しては、主な意見というものがあり、資料2に照らし合わせると、どこに該当していくか分けていくことが出来る。資料4については、考えようによっては資料2の中に含まれているのではないと思う。今さらコミュニティがどうのこうのという話をするよりは、もう意見は出ていて、その結果を資料2という形でまとめてくれている。ただ、これでもまだ項目が7つもあって多すぎる。そのうえで、7つの中で本当に検討しなければならないのはどれなのかというのを取り出してやっていった方がいいのではないか。
- ・今もちろちらと話が出ているが、そういった話というのは、個々、枝葉の話であり、いつ話してもいいような内容じゃないかと思う。回数も11回のうちの2回が終わってもう3回目なので、あと8回くらいで終わらせなければいけない。終わらせるためにはどうするかというところを考えたら、大きな幹を見つけて、その幹に対して絞り込んでいくしかないのではないかとと思っている。

○委員長

- ・資料がすでにかなりまとまっていて、事務局が丁寧に時間をかけて仕事をしてくれて、論点整理がされているわけなので、資料ベースで議論をした方が建設的なのではないかという御意見で、そのとおりだと思う。今委員も言っていたが、かといって7つもあるというのは多いということで、私がこの資料を見ていると7つに分かれてはいるが、厳密に言うと7つに分けるのは難しいと思っている。例えば2つ目の自治会・町内会の話と、3つ目の多様な主体との関係であったり、5つ目の住民の意識醸成であったりというところは密接不可分なところもある。おそらくこの資料というのは、今日だけに限らず、今後検討するうえで必ず手元において我々が資料とすべきものであって、それとともに必ずしもこの7つの中から項目を2つ3つ選びましょうという形じゃなくてもいいと思っている。むしろこの中から出される、さ

らに上位の2つ3つみたいな形でまとめて、論点を抽出出来ないかな
と思っている。実際に今の多くの委員の皆さんからいただいた意見を
私の中でまとめてはいるが、ここから共通して抜き出せるものが2つ
3つにまとまるかなと今のところ思っている。他の発言していない委
員の皆さんの意見も聞いたうえで、まとめていけたらと思う。

○委員

- ・コミュニティ活動は安心安全のまちづくりということで活動している
わけだが、その担い手になっているのは、町内会から出ている方と思
う。今町内会がだんだん少なくなって、担い手がいなくなっているとい
う状況の中で、これからのコミュニティの組織について、町内会を中心
にしたコミュニティ活動を今やっていると思うが、その組織をどうい
うふうに作っていくかということと、今コミュニティで行っている安
心安全なまちづくりのための見守りだとか福祉関係のこと、あるいは
子どもの安全のための見送りというような活動をどうするのか見直す
必要があるのではないか。今コミュニティがやっている活動は、これか
らどういうふうにやればいいのか。もう一つには、担い手は必要なので、
先程も委員から話が出たが、顔が見えるコミュニティじゃないと、見守
り活動一つとっても顔が見えなければうまくいかない。したがって、町
内会というか顔が見える仲間づくりをするにはどうしたらいいかとい
うのを検討する必要があるのではないか。

○委員長

- ・一つは町内会や組織の在り方で、もう一つはその活動ということで、
最後は顔が見える関係、住民の方同士の顔が見える組織・関係作りと
いうことだと思う。

○委員

- ・今の意見と全く同感であるが、私のところのコミュニティは自治会や
町内会がベースになっていて、役員はほとんど自治会・町内会の方で
固まっている。私としては、コミュニティと自治会・町内会という問
題が第一優先として討議してもらいたいと思っている。それから、行
政との関係、どちらかという行政からの仕事として、本来なら行政
がすべきことが、コミュニティに来ていないか、コミュニティで解決
すべきことが行政に直接いたりしていることもあり、その辺の区分
けというか分け方を私の中では二つ目として考えている。先程出てい
た若者とコミュニティの関係や各種団体との関わり方はあるが、地域
によっては、例えば私たちの地域は日立市の中で、高齢化率第2位な
ので若者はほとんどいない。なので、若者をコミュニティに引っ張る

と言ったって、いないものをどうやって引っ張るんだという話になる。地域外の学生や若い方をいかにコミュニティに関連付けるかというのは、非常に難しい話で、そのあたりを考えると第3の検討項目に入るのかなと考えている。この3つくらいに絞ってはどうかというのが私の意見である。

○委員長

- ・一つが、コミュニティと自治会・町内会の関係、在り方の問題。一つがコミュニティと行政との役割分担、区分の問題、そして最後に若者がいないなら入れたくてもいないじゃないかということで、地域外の地域活動に興味がある学生などを地域に招くための仕組みづくり、この3点である。

○委員

- ・自治会・町内会の代表として本委員会に参加させてもらっているが、コミュニティ活動の根幹は自治会・町内会が中心として活動するべきであるし、そこをコミュニティの方たちは大事に考えて自治会・町内会を盛り上げて行ってほしいと常々思っている。自治会・町内会は今消滅しつつあるが、防災無線などが入ると頭の中にすぐ浮かんだのは、隣のおばあさんに声を掛けようとか、私だけではなくお隣さんというのがある。なので、自治会・町内会は身内じゃなくて助け合う人、組織であると、それを前提にコミュニティ組織が進んでいくような流れになっていくといいなと思うので、自治会・町内会の組織は壊れつつあるが、壊れた中でも、防災関係、福祉関係、そういった関わり方を、私はあの人を見るというようにつながりを濃くすると、コミュニティ活動も防災関係、福祉関係などでつながりが濃くなっていくと思うので、そういう末端の組織を利用してもらって、大きな組織にふくらみを持たせてもらえるといいなと思っている。

○委員長

- ・一つは、町内会とコミュニティの関係、もう一つが防災や福祉などの活動内容という理解でいいか。

○委員

- ・それも町内会が末端でやっていく中で、組織づくりをするということである。

○委員

- ・私の親はあまり自治会・町内会に興味がないというか、人間関係が面倒くさい、仕事が忙しくて参加できないという理由で、参加していない。だが、私自身はコミュニティ等に興味があって、この検討委員会

に参加している。

- ・今お話しすることは自治会・町内会からは離れてしまうかもしれないが、コミュニティの組織というのは、自治会・町内会が中心ではなくて、様々な、PTAや百年塾など、それぞれが連携して成り立つものだと考えている。コミュニティのハンドブックや皆さんの意見などを聞いて、やっていることなどや、意見を出し合って良くしていこうという気持ちがあるのはすごくいいことだと思うが、若者に認知してもらおうというのが一番大事なのかなと思っている。担い手がいないと言っているが、内容を若者目線で伝えていくのが、若者には一番響きやすい。自治会・町内会のお知らせだけでは、自治会・町内会に入っていない人がたくさんいるわけなので、日立市のTwitterやSNSで発信して、担い手をどんどん引っ張っていく、やりたいという気持ちを湧きあがらせることが必要なのではないかと感じる。

○委員長

- ・若者に認知してもらおうための伝え方を議論すべきだという意見である。伺いたいのが、両親は地域活動にそんなに関心がないという中で、自身は興味があるという頼もしい意見があったが、周りの学生の意見としては地域活動についてどう考えているのか。委員が珍しいのか、それとも意外とそういう学生は多いのか。

○委員

- ・私の周りでもこの地域が好きだという意見や、ずっと日立市に住んでいたいという友人は一定数いる。ただ、コミュニティに参加するかどうかというような話はしないが、長く住み続けたいという思いがある若者はたくさんいるので、この住みやすいまちをコミュニティとともに若い人たちが作っていけるのが理想だと思う。

○委員長

- ・大変心強い情報である。私も同じ思いを持っていて、常磐大学でも地域活動に関心があって、熱心な学生は一定数いる。そういった志を持った学生をいかに結びつけていくかというのは大事な論点である。

○委員

- ・話が出ているとおり、組織の問題というのは当然切り離せない。自治会・町内会とコミュニティということを基本的に考えていけないといけない。ただ、自治会・町内会はその中で何か役割をするという機能は無理だと思う。また、解散したところでもう一度自治会・町内会を作るということも難しい。一方で情報の伝達やいざというときのアンテナ役ということで、新しいネーミングは置いておいても支え合いを作る

ような班を再生していかないと結果的には歯抜け的な組織になってしまう。災害が多い中で、単身世帯も増え、高齢化も進んでいるということになると、どうしても地域の目、顔が見える関係がないと災害時にそういった方々が亡くなるケースが出てくる。そういった再生の仕方を考えていくということが大前提かと思う。

- ・その中でコミュニティや行政の役割があるのかなと思う。そのうえで住民参加、若い世代や子育て世代、介護している家庭の世代などいろいろな関わりがあると思うが、どうやってコミュニティ活動に参加してもらうのか、さらに個々人の参加が難しいという中では、いろいろな組織があると思うので、NPOだったりボランティアだったり、そういった団体もコミュニティ活動に入っていかないとこれからの時代難しいと思う。さらには、23のコミュニティ単会それぞれがいろいろな活動をやっているが、個人的に残念なのは他のコミュニティ単会との連携がほぼないことである。強いコミュニティの部分は他のコミュニティにも応援するなど、そういったことを持ちかけていくなど、唯一河川清掃は、上流をきれいにしないと下流をきれいにしても意味がないので、連携を取っているようであるが、日々の活動の中でもお互いにやっていかないと、残念ながら日立市は、人口減少でも県内でも有数であり、過去に全国で2番目になってしまったこともあるところなので、そういったことと一緒に若い人たちも含めて考えていって、開かれたコミュニティにしていく必要がある。そうしないと関係者というか好きな人たちだけがやっているようになってしまわないか。

○委員長

- ・組織をいかに再生させるかというところと役割の話、それから単会同士も含めた様々な団体との関係構築、開かれたコミュニティによる住民参加という話であった。

○委員

- ・皆さんと大体考えが同じであり、話すことがないなと思っていた。私たちの自治会では、今60軒あり、役員が6人いる。最近では役員が亡くなったり、病気になったりして、役員がいなくなるケースが増えてきている。今はこういう時代なのであまり行事もやらないので、今のところ交代でやってはいる。それから、先程あった外灯の問題についても、私たちのところでは14灯の防犯灯があり、市のおかげでLEDになって感謝している。電気料も安くなって喜んでいるところである。

○委員長

- ・様々な意見が出たが、思った以上に共通項が多かった。私の方で論点をまとめてみた。今後この3点について中心的に議論してはどうかと考える。
- ・一つはコミュニティの組織の話、二つ目がコミュニティの活動の話、もう一つが市民意識の話。組織と活動と意識。この3点かと思う。
- ・組織というのは今現在の単会の組織の在り方もそうだし、自治会・町内会とコミュニティの関係、行政とコミュニティの関係、あるいはそれ以外様々な団体との関係というところも捉え直さなければならない。組織自体の在り方やほかの組織との関係の在り方について集中的に議論するというのが一点目。
- ・二つ目が活動の内容、防犯や安心安全、福祉という話もあったが、スリム化や最小限のという話もあったし、いくつかの活動を選択できるというような議論も必要になってくるかもしれないし、資料の中にも有償ボランティアのような話もあったので、コミュニティとしてどんな活動をしていくべきかというのが深い論点かと思う。
- ・最後が加入率の問題で、いかにしてコミュニティや自治会・町内会に対して、ポジティブな意識を持ってもらうのか。いかにして意欲のある若者たちに活動に参加してもらうのか、伝え方も含めて検討したい。最終的には顔の見える関係を構築し、いかにしてある種のフリーライダー、タダ乗りするのをなるべく防止するのかというかたちの、加入率や意識の問題について集中的に議論することが必要だと思う。組織について、活動について、意識の醸成についてという3点で集中的に議論するというところでどうか。

○委員

- ・その内容だとあくまでも自治会・町内会を中心とした話し合いということになるのか。

○委員長

- ・最初のコミュニティの組織の時には自治会・町内会のことについても当然話し合うが、自治会・町内会とコミュニティの関係をどうしていくのかということも含めてやっていく。

○委員

- ・コミュニティというのが、自治会・町内会という捉え方でなくて、自治会・町内会はコミュニティの一部であるという考え方もあると思う。そういう場合はどういうふうな分類になるのか。

○委員長

- ・そこはまだこの委員会の委員の中で共通理解が出来ていないと認識している。

○委員

- ・コミュニティというのはあくまでも、コミュニティ推進会、自治会・町内会というかたちになるのか。

○委員長

- ・そこはむしろ今ここで絞ってはいけないと思う。むしろそういったことを集中的に議論しようということである。

○委員

- ・そういうことも含めて見直すということだと思う。

○委員

- ・そういうことであれば、理解した。

○委員長

- ・もちろん、今の私のまとめ方だけでは不十分というか、言葉足らずなところもあるので、今日のみなさんの議論をまとめさせてもらったうえで、整理したものを資料としてお出しできるようにしたい。大きく言ってこの3点について集中的にそれぞれの会で議論するという形で方向性として認めていただければと思う。
- ・続いて「今後のスケジュール案について」に移りたいと思うが、事務局から説明をお願いします。

(7) 今後のスケジュール案について

資料1に基づき、9月までに提言書を提出する予定であったが、新型コロナウイルスの関係で委員会が開催できなかったことから、令和3年3月までに意見をまとめる方向で見直したこと及び各委員会等のスケジュールについて、事務局から説明があった。

○委員長

- ・3点に分けてお諮りしたいと思うが、1点目がスケジュールを9月までの予定だったものから、3月までに延ばすというもの。もう一つが9月30日の単会会長へのヒアリングについて。3点目が各回どういう形で議論するかについてである。
- ・まず一点目、9月までにまとめるというのは無理なので、3月まで委員会を延長することについてはよろしいか。(了承)
- ・二つ目として、9月30日に各単会会長が集まる会議の席上で、この在り方検討委員会についても議題に挙げてもらうことになったので、私もその時に参加させてもらおうと思っているが、関心があり、時間の都合のつく委員の皆さんはご参加いただきたい。自由参加ではある

が、後ほど事務局から案内させていただくことについてはご了承いただけるか。(了承)

- ・ 三点目として、今日で大きく分けて3点に論点を絞った。これから深く議論しなければいけないわけだが、どのように議論していくかについて皆さんに諮りたいが、一つはスケジュール案どおりに進め、今みたいな形で、全体で3つの論点について議論をしていく方法、つまり1回目から3回目と同様な形で進めるもの。二つ目は、論点が3つ出たので、論点ごとに分科会を作る方法、組織について集中的に議論する分科会と、活動について集中的に議論する分科会と、市民の意識の醸成とか加入率について集中的に議論する分科会を設置し、8月と9月にそれぞれの分科会ごとに議論をいただいて、ある程度分科会ごとにまとまった意見を、検討委員会に報告してもらって共有するというもの。かなり深掘りして議論が出来ると思う。20名以上の委員で議論をするのは中々難しい側面があって、少人数で集まって議論するとある程度議論がしやすい部分がある。一方でかなりスケジュールが大変にはなる。それぞれの分科会に参加してもらい、さらに検討委員会で検討するとなってくると、スケジュール的にかかなりきつくなってしまいうので、分科会ごとの調整等難しくなってしまうかなとも思う。3つ目として、スケジュールはこのままで、4回目や5回目の検討委員会を前半と後半に分け、前半はグループワークみたいな形で、例えば次回はコミュニティ組織に関して深掘りをする予定であるが、最初の1時間から1時間半は3つぐらいの小グループに分かれて、組織や関係について議論をしていただいて、そのあとの1時間で全体会として各グループでどういった議論が行われたかを情報共有したうえで、全体でもう一回議論する。次の会には関係性について、前半1時間半で小グループの議論をして、後半の1時間で共有して議論するというような、前半グループワーク後半検討委員会方式というもの。こうすると専門の分科会程は深く議論できないかもしれないが、少なくとも同じ論点について、いくつかの視点で議論することが出来るというところと、スケジュール調整がやりやすい。この3つを考えてみたが、皆さんから意見はどうか。

○委員

- ・ 2つ目の、分科会ごとに深く議論をするものがいいと思う。3点目に話した1時間半くらいでは、議論できないと思う。分科会ごとに論点を受け持って、4回目5回目で議論して、それをその後の全体会できちんと統一した意見を持つというのがいいと思う。

○委員

- ・今の案と同じように、二つ目の分科会形式が適切かと思う。ただ、条件があり、その形式となったときに、各分科会でリーダーシップをとってくれる方がいるのかというところと、そこで出てきた議論に対して資料としてまとめる事務局の協力が得られるかどうかというところで、そのあたりを考えると大変かなとは思ふ。

○委員長

- ・本当であれば全部の分科会に私が参加するべきであるが、スケジュール的にも難しい。また、事務局に相当負担が出ることもそのとおりなので難しいところである。

○委員

- ・今の委員が言ったことも理解できるが、以前に分科会がある市の委員会に参加したときに、やはり3つに分けてやったが、自分の分科会は詳しくなるが、他の分科会は無関心になるというか、発表を聞いているだけみたいになってしまう。今行っているのは、コミュニティ活動全般について、今どういう状況なのかというようなところなので、分科会程深くはならないが、3つ目の前半後半型にして、同じものに対して発言の機会が多くなるように、グループを作って同じテーマについて前半で議論をし、後半に全体で共有するというものもいい。そういう風にすると、それぞれが発言の機会もあるし、私みたいにグダグダ言っているのを聞かなくても済むということになるので、出来れば3つ目の案のような形で出来ると、議論はある程度深まって、全体の意見も各回で聞けるという形になると思う。

○委員

- ・私は、2番目の案がいいと思う。1時間くらいでは議論が深められないと思うので、それぞれにグループで責任をもって深く議論をして、その中で隣のテーマについても出てきたものは同時に併記しながらやっておいて、次の全体会議で出せるようにしていくのがいいのではないかと思う。他のグループがまた意見を出せる機会が必要だが、中途半端だと堂々巡りでいつも同じことしか議論されない可能性があるもので、これ以上言うことがないというくらいまでそれぞれの分科会で責任をもって議論してくる必要があると思う。事務局が大変であれば、ここにも何人もコミュニティ単会の会長がいるので、責任を持ってカバーするというやり方もありかと思うので、2つ目の案がいいと思う。

○事務局

- ・先程スケジュール案を説明したところであるが、12月の上旬には中間報告をまとめ、概ねの方向性を決めていただきたいと思っている。論点の議論については、9月までにはまとめていただきたいと思っているので、そこも考慮して議論していただきたい。

○委員長

- ・事務局からスケジュール感の話もあったが、皆さんからの意見はどうか。

○委員

- ・今までの話で行くと、2つ目の案の方向になっているかと思うが、私だったら3つのテーマ全てに興味があるが、1つに絞らなければいけないのかという問題も出てくると思う。そう考えたときに、普通ワークショップなどは、1時間くらいのところで出てきたものをすり合わせていくものであって、このグループはこういう意見が出てきたというようなものを聞くことにも興味があるのに、一つを選ばなくてはいけないというところはどうかと思う。私としては、3つ目の案で、グループワークをして、このグループはこういう話が出たという方が、ファシリテーターによる部分はあると思うが、情報の共有という意味ではいいのではないか。じっくり議論と言っても、たぶん堂々巡りになるのではないかと思われるので、小グループに分かれて議論をした方が、それぞれの意見が出てきて、発表して共有としたほうが良いと思う。

○委員

- ・私は3つ目の案が良いと思う。皆さんがいろいろな立場から集まっているので、得意不得意の分野があると思う。分科会としたときに自分の不得意の分野になってしまったり、若い方の意見が欲しいところに若い方がいないというようなことになったりするようなことがあるのであれば、各小グループでいろいろな立場からの意見をあげて最終的にまとめた方が、深くはないかもしれないが広くいろいろな意見で考えることが出来るのではないかと思う。そうすると日程的に9月ごろまでにまとまらないというのであれば、10月まで余裕を見ていただくなど考える必要はあると思うが、その方が良くまとめられると思う。

○委員

- ・私も今の意見を聞いていて、時間的な問題が難しいなどは思うが、時間的に3回開催が可能であれば、3つ目のグループワークの案が良いと思う。分科会に分かれると深い話し合いは出来ると思うが、せっか

くいろいろな立場から集まっていて、私自身もそれぞれの項目について意見を言いたいし、いろいろな方の意見を聞いて、様々な意見から絞っていった方がよりよい意見が見つかる可能性が高まると思うので、時間的にあと1回どこかで増やすか日程を遅らせるかをしないと難しいとは思いますが、出来れば3つ目の案がいいと思う。

○委員長

・事務局に伺いたいのが、もう一回増やすことは出来るのか。

○事務局

・事務局の案としては、本日の委員会と8月の委員会の中に増やすことが出来ないかと考えているところである。候補としては、8月11日（火）に開催できないかと考えている。

○委員長

・そうすると、8月11日と8月28日と9月25日の3回ということか。出来れば8月28日と9月25日の間に開催できればということでもあったが、その期間はたしか市議会の開催時期であったと思うので、難しいということだと思う。

○事務局

・お話のとおり、議会の開催時期であり、その間に委員会を開催するのは難しいのでご理解いただきたい。もし、8月11日は難しいということであれば、8月28日か9月25日に午前、午後と開催するという方法もある。

○委員長

・午前、午後というのは体力的にも難しいところがあると思う。

○副委員長

・3回で実施するという事に賛成である。事務局から日程についても提案があったので、皆さんがよろしければこの案でいいのではないかと。

○委員長

・私も8月11日の予定は大丈夫である。難しいところであり、分科会をやった方が深掘り出来ることは確かであるが、スケジュールの問題とコロナウイルスの関係で会議室の確保が難しいというところがある。また、分科会ごとの情報共有の部分で、一つの論点だけに集中してしまって、各論点があまくくつつくのかという問題がある。先程話にあったように、様々な立場の方が一同に会っていて、3つの論点それぞれが大事な論点であるので、それぞれの委員の方々が3つの論点いずれに関しても議論していただきたいというのが、私としての気持

ちである。

- ・詳細については、また事務局からご連絡させていただくとして、3つ目の案である、全員が前半にグループワークを行い、後半に共有するという形をとり、8月11日にも日程を追加するということでよろしいか。現時点で8月11日の参加が難しいという方はいるか。

○委員

- ・午後は難しい。

○委員長

- ・それでは9時30分からの開始ということでどうか。次回は、組織や関係について、自治会・町内会とコミュニティの在り方やコミュニティ活動の中でそもそもどういうふうに自治会・町内会を位置づけるのかというところや、行政との関わり方をどうするのかというところを議論する予定であるので、皆さんも今までの資料を基に、組織がどうあるべきかについて考えを持ったうえで、参加していただきたいと思う。

(7) その他

ア 次回の日程等について

次回検討委員会は、8月11日（火）午前9時30分からとし、場所については、会議室等を確認のうえ、改めて事務局から連絡することが説明された。

以 上